

審判員派遣報告書

派遣事業名	令和7年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会	派遣期日	令和7年7月28日～31日
報告者	久保理恵	派遣先	岡山県岡山市

1 大会概要

大会名称	令和7年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会	大会期間	令和7年7月26日～8月1日
大会概要	各県代表校のトーナメント方式による優勝決定戦。		

2 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和7年7月28日	会場	岡山市総合文化体育館
審判クルー	CC: 久保理恵（香川） U1: 熊本裕一朗氏（広島） U2: 藤田沙織氏（山口）		
担当試合	女子2回戦 八雲学園（東京） VS 近江兄弟社（滋賀）		
試合内容	速い展開のバスケットで得点を重ね、122対80で八雲学園が勝利した。		

日程	令和7年7月29日	会場	ジップアリーナ岡山
審判クルー	CC: 石鍋光智代氏（東京） U1: 久保理恵（香川） U2: 林剛太氏（熊本）		
担当試合	女子3回戦 倉敷翠松（岡山） VS 土浦日大（茨城）		
試合内容	序盤から留学生を中心に攻撃を組み立てた倉敷翠松が73対61で勝利した。		

日程	令和7年7月31日	会場	ジップアリーナ岡山
審判クルー	CC: 和田敏文氏（福岡） U1: 岸本祥也氏（岡山） U2: 久保理恵（香川）		
担当試合	女子準決勝 日本航空北海道（北海道） VS 岐阜女子（岐阜）		
試合内容	前半から均衡した試合展開で、68対60で日本航空北海道が勝利した。		

3 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

～全国大会を担当するにあたって～

Ground Rule

- ・日本の高校生のトッププレイヤーを担当する自覚と責任を持ってトライ（プロ予備軍）
- ・全員で基本を強化し、トライ（basic basic basic）
- ・優先順位は、①ゲーム②クルー③自分でトライ（自分のエゴを捨て、ゲームファースト）

Main Theme

- ・全審判員の代表としてコートに立つ（準備9割）
- ・メカ、マニュアル、ルール、インプリに則った適切な処置、対応を実践（スムーズな運営）
- ・タフでフィジカルなゲームを目指す（プレイコーリングの高い精度）

～研修「ビッグマンに対するコンタクトの理解とポイント」（堀内 純氏）～

インターハイに出場するチームは、男子では3チームに1人、女子では5チームに1人の割合で外国籍留学生のビッグマンプレイヤーがいる。事前のオンライン研修では、ビッグマンに関わるコンタクトについて、動画を見ながら堀内氏の説明を聞くことで理解を深めることができた。

～研修②「IH テーマの振り返りと処置ミスの事例」（村上 恵美氏）～

インターハイの継続的な取り組みである「処置ミスゼロ」について、ヒューマンエラーが起こる仕組みや要因を探り、動画で、処置ミスが起きそうで起こらなかった（防ぐことができた）場面を共有し、気づきや想像力、慮ることが大切であると感じた。

高校生たちの一生懸命なひたむきさから、フィジカルで、タフで、ワクワクするような試合を作り出せるようなレフェリングを心がけた4日間でした。全国の場に立たせていただいて、やはり大切だと感じるのは、ベーシックです。ここがあるからスムーズな試合運営ができ、プレイコーリングの精度も上がると改めて感じました。また、2回戦のIRをしていただいた村上さんに、レフェリーが管理すべきものはクロックなどの表示物やTOだけではないことを教わりました。常に粛々と、時に毅然とゲームを進めていくことは大切なのですが、それだけではいけないこともあります。怪我をした選手やチームへの関わり、その他のさまざまな気遣い、人間味あふれるレフェリングが求められる場面があることに気づくことができました。選手のため、見に来ている人たちのため、面白いバスケットの試合にするために、私自身がトライできることはまだまだたくさんあると思えました。

4 その他

開催権である岡山県のたくさんの方々が関わり、支えてくださったおかげで、素晴らしい大会となりました。メインコートに立ったときは、緊張を上回る喜びと感謝の気持ちを感じました。

今回の派遣に際して、ご支援いただいた香川県バスケットボール協会の皆様へ、心より感謝申し上げます。経験したことを県内に還元できるよう、より一層活動に励んで参ります。引き続き、ご指導のほどよろしくお願い致します。